

4 2. 《享保の厄災と、隅田川川開き》

1728年（享保13）10月2～4日、江戸は、宝永元年の水害を上回る洪水に見舞われます。隅田川、神田川や江戸川の橋が多く流失し、死者は1万人を上回ったそうです。

また1732年（享保17）、冷夏と害虫により、中国・四国・九州地方の西日本各地が凶作に見舞われました。世にいう享保の大飢饉です。死者は、1万2千人とも記録されています。

この事態に、幕府は、1733年（享保18）7月9日、人々の慰霊と悪病退散を祈り、隅田川で水神祭を行います。このとき、両国橋周辺の料理屋が花火を挙げました。これが、現在の隅田川川開きのルーツです。

大阪の天神祭、京都の祇園祭も、そのルーツは、為政者が厄災を払いのけるために始めた祭です。日本の3大祭として、この2つの祭以外に名前を挙げるとすると、東京は、隅田川川開きとすべきだと思います。

そして、歴史上稀に見る大洪水である「寛保の洪水」に見舞われるのです。

なお、青木昆陽（生没年1698－1769年）は、享保の飢饉のあと、徳川吉宗から救荒作物としてサツマイモの試験栽培を命じられ、千葉県において成功します。それから、サツマイモが全国に広がりました。

写真は、①隅田川川開き（名所江戸百景「両国花火」安藤広重作：東京都ライブラリーより）、
②青木昆陽（森小湖筆 Wikipedia より）

①



②

